神戸中央支部

復興した神戸の街で ピティナはますます盛ん

発足して6年になる神戸中央支部の躍進は目覚しく、設立当初100名程度だったコンペ予選参加者が約3倍増、所属会員120名は、全国130の支部・連絡所の中でベストテンに入る規模である。今年から兵庫本選の主幹支部を務め、

来夏はアミューズ部門(来年は改称)の関西地区本選を運営する予定になっている。震災から8年。復興をとげた神戸で、ピティナは着実に成長を続けている。



■ピティナ神戸中央支部運営委員長 石井なをみ先生

▼事務局ヤマハ神戸店



心のケアと芸術の力を説かれて

神戸中央支部は1998年に開催された「まなびピア」をきっかけとして発足した。その年の春、発会準備のために、故福田靖子前専務理事が神戸を訪れたが、3年前に発生した阪神淡路大震災の後遺症と言うべく、子ども達の心のケアが問題にあがり、人が強く生きていくために芸術の力が必要、という気運が高まっているところだった。支部長の福田義秋氏(ヤマハ神戸店)が、当時を振り返る。

「前専務理事がピアノ教育に対する持論を情熱的に説く姿は、福沢諭吉の『文明論之概略』さながらでした。西洋文化を徹底的に研究した上で自説を独自に展開させる、という諭吉の手法に似て、まさに自由独立の知識人を感じさせ、大いに共鳴したのです。」

ステップの開催に向けての情熱

支部の企画推進の中心は、石井なをみ先生である。1999年12月、初めてのステップアドバイザーとして徳島に派遣された帰り道、神戸でのステップの実現に向けて、興奮冷めやらぬ雰囲気で関係者に報告を入れたとのこと。その後、ヤマハ神戸店との協力体制を強化するために営業会議でピティナに関する講演を行ったり、ステップ説明会の動員のために3日間かけて近隣の会員に電話を掛け続けたり、石井先生の意気込みとフットワークは、関係者の心を動かした。

2002年6月、第1回のステップで97名。翌年6月の2回目には122名が参加。並行して、藤原亜津子先生によるピアノ指導法講座の企画、バスティン研究会 in Kobe の発足などを推進したところ、ほんの1年間で支部所属会員が倍増